

新型コロナウイルス感染拡大に伴う関係機関の相談・対応状況について

資料5（当日配布）

団体名	相談等対応をする中で把握した不安やストレスの内容	相談等対応をする中で感じたスタッフ側の不安やストレス	自粛制限がある中でも、健康づくりや孤立防止に向けて活動を進めるために取り組まれたことや工夫したこと
まちづくり協議会連合会	各自がそれなりの情報を得ておられるのか？当方側には特に相談はなかった。	左記によりなし	各町内会については行事の中止が多くあり、特に外出は控えるように呼び掛けた。また健康面においては文面等で、内容としては「3密」は絶対に避ける、マスクの着用、および手洗いの徹底、さらにバランスの良い食事、そして十分な睡眠を！と町内回覧で呼び掛けた。
社会福祉法人草津市社会福祉協議会	当初(2～3月頃)は、遠方の都市部の出来事としていたが、約6か月過ぎて、50～60人前後の患者数(県内)が、今や300人をあつという間に超えて、また身近にも陽性者が発生して身近なウイルス蔓延にどう対処したら安全なのかかわからず困っている。高齢者には「閉じこもり」状態も散見している。県市もただ状況の把握に追われており、何ら有効な情報提供はなく、マスク、3密防止・・・などと発表するのみで、具体的な働きかけが全く見えないと感じている方が目に付く。	いずれも「どこに」「誰が」保菌者がいるかわからないので、いつもの通りの接触をためらって、やむを得ず「電話、手紙、メモ、メール」等の手段に頼り、逆にこれでいいのかと悩むケースが多くなっている。いつもの集まりを続けていいのかどうか判断できず「中止」としているが、随分「なぜ？」というクレーム連絡が多く、間に入って会の存続をあきらめるケースが目立っている。公的助成金の返却もありうるため、活動が消極的となる。	現状、様々な集会、イベントはすべて中止中。自分自身の安全をどうしたら守れるのかが一番の不安とストレス。道で出会っても余程のことがない限り、無用な会話はしない。熱中症も心配なので、外出は控え、自宅内でじっとするしか対策が見えず。極力学区外にはでない、出る場合は車で、短時間で済ます生活習慣に変わりつつある。
草津市民生委員児童委員協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・肺に疾患のある家族がいるので、買い物に行くのも怖い ・マスクの予備がなくなり、使い捨てマスクを何度も洗って使っている ・マンションのエレベーターに乗れない。エレベーターのボタンも乗り合わせた人もすべてが怖い 	「このような時こそ何かしなければ」というストレスが大きかった	<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らし高齢者、高齢者世帯に「お変わりございませんか？食事睡眠をしっかりと摂り、家の中でも身体を動かしましょう！お困りのことがあればお電話ください・・・等」のお便りをポストインした。 ・学区社協と連携して、一人暮らし高齢者(約160名希望者)に、ちらし(無料)を、菓子とメッセージを添えて配布した。大変喜んでいただいた。

草津商工会議所	<p>・COVIT-19について何にもわからなかったこと。収束までの期間やどれほど威力のあるウイルスなのかかわからないまま、経済活動が停滞したこと。</p> <p>・熱が出た場合、出勤停止される事業所が多かったが、熱が出た後PCR検査が受けられなく、どこまで出勤停止を続けるかの判断</p> <p>・感染に対する従業員の感受性の差から、どうしても自分と違う行いをする人に批判的な意見が出てくること。</p>	<p>・大勢の方の相談を受ける中で、こちらが罹患しないかという不安。 対面での相談はできるだけ行わないようにしたが、様々な施策が国、県、市より出され、相談に来られる方は多かった。対策は十分行ったが、罹患すれば職場全体が一定期間活動できなくなり、多方面に迷惑がかかるという不安。</p> <p>・職場の対応について情報が少なかったこと。 どこまで濃厚接触者になるのか、消毒はどうすればよいのか、どの範囲で営業を停止しなければならないのか、事務所内の防止対策や行動規範などは作ったが、感染防止のためどこまで気を付けなければならないのか(公共交通機関を利用した通勤の危険性)等。</p>	研修会や巡回での支援は控えているが、国、県、市の事業者への支援策や制度紹介等文書での告知は増やした。
滋賀県司法書士会	本会においては無料法律相談会を中止しました。	左記に同じ	特になし
ハローワーク草津	<p>・電車通勤について職場の同僚から嫌味を言われた相談があった</p> <p>・現状では具体的にワクチンが成功していないことに対する不安があり</p> <p>・基礎疾患のある方、妊婦は外出するだけで感染を心配され、電話相談を行った</p>	マスクをせずに、相談窓口に入っても、こちらからは注意しにくいことはある。	特になし
滋賀県自死遺族の会 凧の会おうみ	例会を開催するかどうか(出来るか、してもよいのか)が難しかったので、参加者の側も開催されるのか、参加してもいいのか心配はあったとの声がありました。	例会を開催するにあたって、会から感染者、濃厚接触者が出ると、県や精神保健福祉センターにも迷惑がかかるので(もちろん参加者にも)、会場の設営時などには一つ一つの行動に注意し、気を配らないといけないので、普段以上に疲労感があります。	特にありません

<p>一般社団法人草津 栗東医師会</p>	<p>本年4月頃から「コロナうつ」や「コロナ不安症」のため、精神科(心療内科)を受診される方が出始めました。</p>	<p>病院や診療所ではコロナが伝染るのではないかと心配し、来院されないことがある。</p>	<p>積極的に電話再診を行い、患者の孤立化防止に努めた。</p>
<p>草津警察署</p>	<p>コロナウイルス感染拡大に関する相談はありませんでした。</p>	<p>左記に同じ</p>	
<p>社会医療法人 誠 光会 草津総合病 院</p>	<p>別紙</p>	<p>別紙</p>	<p>別紙</p>
<p>滋賀県南部福祉健 康事務所</p>	<p>クラスター発生事業所、医療機関の従業員の家族(濃厚接触者ではない)が、職場から「他の従業員に精神的によくないので、出勤しないでほしい」と言われ、保健所で大丈夫だという証明をしてもらえないかといった、偏見による不当な扱いにかかるストレスの相談を受けた。</p>	<p>・当初(3~4月)は検査希望の相談に対して、対象とならないことを説明しても了解が得られず、恫喝を受けたり、感染拡大防止対策にかかる行政への要望、不満等が多数寄せられるなど、精神的にしんどい状況が続いた。</p> <p>・一方で県民の方から、職員への感謝やねぎらいの手紙やメール等をいただき、精神的に癒され、業務へのモチベーションにつながった。</p>	<p>新型コロナ感染症対応のため、中止・延期せざるを得ない業務が発生しているが、自殺未遂者支援事業での連絡ケース、ひきこもりケース等の個別支援は継続して実施している。</p>